



カウンター技術にも確かなものがある。



佐久間の強烈な左ミドルが観衆を驚かす。

佐久間晋哉、
大柴ひろしにK.O勝ち！

勝った瞬間、佐久間は喜びを表現した。フェザー級戦線に新たな王者が誕生した。



エース不在の交流戦に 咲く華は…



左右連打で上村を打ち倒した中沢。上村は大きなダメージを受けた。

中沢夏美は
上村里子を返り討ち！

膝蹴り狙いの上村だったが、ミドル変更が裏目に出たか。



期日●平成8年12月22日
場所●後楽園ホール
主催●全日本キックボクシング連盟
日本キックボクシング協会

メインイベント
交流戦・フェザー級

○佐久間晋也(八王子FSG)
【K.O.、3R0分36秒】
●大柴ひろし(岩政館)

土屋ジョー対高謙介の試合が最大の負傷により中止となり、急きょメインに抜擢されたのは、9月の興行で復帰した東海太郎を判定で下した佐久間晋哉(八王子FSG)と、小野寺力と日本フェザー級王座決定戦を戦った大柴ひろしとの一戦だった。

立嶋も小野寺も出場しない両団体の交流戦のメインを務める重責からか、勝った佐久間は「試合が近づくとつれて、緊張感が募っていった」と語る。5回戦に進出して、これが2試合目となる佐久間にとってはプレッシャーも大きかったことであろう。

試合はサウスポアの佐久間が左ストレートを中心に強打を浴びせ、最後は左ストレート、右アッパー、左ミドルのコンビネーションで大柴を粉砕した。敗れた大柴は左腕の肘関節当たりに負傷し、担架で運ばれていた。

セミアイナル
全日本キック女子フライ級

○中沢夏美(不動館)
【K.O.、3R0分20秒】
●上村里子(八王子FSG)

不動館三人娘」とうたわれつつも、熊谷・三井らに出遅れている感のある中沢の1月以降の試合は、前回と同じく上村里子だった。上村はパンチに膝を合わせる作戦に出したが、中沢の勢いを止めることはできず、逆にパンチを食らってしまう。

中沢は2Rにパンチで2度のダウンを奪って、3Rには左右連打を浴びせてレフェリー・ストップにより上村を返り討ちにした。試合後、中沢は「館長には2Rから攻めろと言われていた。もう国内には戦う相手がないので、国際戦をやりたいんですけど…」と苦しい胸中を明らかにした。

もともとフライ級の中沢には、体重を上げてプロレスラーと戦うという選択は不向きである。勢いに乗っているだけに、対戦相手がない現状は何とかしてもらいたいものだ。